

男性のオシッコスタイルに変化
果たして便器の形は最適なのか？

ある便器メーカーの調べで、およそ15%の男性が便座に座って排尿していることがわかった。その理由まではわからなかったが、「排尿時の飛沫や誤射を少なくしたい」「排尿時の音を低減したい」「ズボンを下ろして排尿するため、座ったほうがラク」という理由が考へられている。筆者は「男は立って排尿して当然」と思い込み、疑いもなかったが、時代はすでに一歩先。調べてみると、飛沫が飛び散るのを嫌う主婦が、夫にひざまずいて用を足すよう促している家庭もあるのだとか。以来、注意して男性用の小用器を見ているが、実に形がさまざまなのに気付く。つまり、洋式トイレの便器がほぼ同じ形なのに対し、これだけ男性の小用器の形が多様なのは、メーカー側が飛沫対策に悩んでいる証拠。しかも、家庭のトイレは洋式便器一種だけのところが多いだろうし、そろそろ便器の形を根本的に考え直した方が良いのかもなあ。ションベンクロスして遊んでいた時代が懐かしいぜ。

いまどきの歴史

一番新しい日本の一ページ

クローン人間
倫理の壁に阻まれるクローン技術
積極的に活用できる道の模索を



木屋町のクローン!!

「さ...のあ2人は
単なる双子...」

イタリアの医師がクローン技術による妊娠の実験に成功したと発表。報道によると、史上初のクローン人間となると思われるのは、裕福なアラブ人の息子だとか。さて、これに常につきまとうのは倫理的な問題。体外受精は受精後は妊娠と同じプロセスを辿るといってよしとする考え方が主流のようだが、万能細胞を卵子に入れて着床させ、培養するというクローン技術は倫理的に許されないというのが多くの意見のようだ。もちろん、万能細胞が一個体の人間になるかどうかは実証されていないので、そこにも疑問が残る。

筆者は人間に対してクローン技術を使う場合は、「遺伝病の治療のため」「臓器などの再生治療のため」「同性愛の夫婦のため」といったクローン技術以外に他に方法がない時にのみ適用するならば良いと思う。しかし、倫理的折り合いがつかない場合は決して先走るべきでない。むしろ、狂牛病騒動で打撃を受けた畜産、コンパニオンアニマルとして重要な位置づけを確保しつつあるペット産業といった分野でのクローン研究を進め、さらなる技術向上に尽力して欲しい。

立とうが座ろうが
いや、しゃがもうが



男は黙って
和式やろッ!!

速くて近き国

未知の国・イスラエルは日本が
学ばなければならない現象の宝庫

最近、毎日のように「イスラエル・パレスチナ情勢」についてのニュースが報道されているが、国際情勢以外の分野でイスラエルに詳しい日本人は驚くほど少ない。京都府綾部市がエルサレムと友好都市ということも、あまり知られていない。

イスラエルはベンティアムプロセッサやDSLの開発、ダイヤモンドの加工、砂漠の緑化などにおいて、世界屈指の技術をもっている国。現在も、そして未来も、先進国はイスラエルの恩恵にあやかっていくという事実を日本人はもっと知らねばならない。イスラエルは歴史ある地であり、テクノロジー一大国であり、それでいて美しい自然を誇る国でもある。実は京都ととても良く似ているのだ。タイムリーなところで言えば、ワールドカップにおけるテロ対策など、お手本にすべき部分もあるし、反面教師として学ぶ部分もたくさんある。テロ対策やさらなる環境保護が急務となる21世紀。イスラエルは一歩先から我々に疑問を投げかけている。

70年代

このイスラエル人から
秘めたパワーを学んだ
元少年少女も多いはず。



文◎大塚 祐希

1968年大阪府八尾市生まれ。昔ながらの京都の民家を仕事場とするライター集団「大塚祐希事務所」の暫定CEO。「スポーツが好きだが自分ではやらない」「車が好きだが免許を持っていない」「酒が好きだが外で飲むと店で眠ってしまう」という数々のジレンマと戦いつつ、今日も愛機G4を駆る。

イラスト◎両口 和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キョートル・イラストレーション」のチーフ。猫、フランス車、家具、雑貨、レコード、本、おもちゃ、平日の公園。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP◎http://www.d1.dion.ne.jp/ryoguchi

